

福島大学

東北地区国立大学法人等職員採用合同説明会

令和7年7月26日（土）、7月27日（日）開催





説明内容

1. 福島大学の概要
2. 事務組織と業務内容
3. 理念・将来構想、取り組み
4. 求める職員像
5. 勤務条件・福利厚生
6. 第2次試験

福島大学の概要



基本情報

【設立】

昭和24年5月

(平成16年4月～国立大学法人へ)

【教職員数】 ※令和7年5月1日現在の常勤教職員

573名

(うち事務系職員 177名)

【学生数】 ※令和7年5月1日現在

- ・学類生、大学院生 4,534名
- ・児童、生徒、園児 1,143名



組織

□ 教育上の組織（3学群5学類、4研究科）

人文社会学群：人間発達文化学類・行政政策学類・経済経営学類

理工学群：共生システム理工学類

農学群：食農学類

地域デザイン科学研究科、教職実践研究科、
共生システム理工学研究科、食農科学研究科

□ 研究上の組織（8学系）

教育学系、地域文化・言語学系、健康・運動・心理学系、
法・行政・社会学系、経済・経営学系、自然科学・情報学系、
応用理工学系、生物・農学系

□ その他組織

附属図書館、2機構、8センター、3研究所、農場、附属4校舎、
事務局



事務組織と業務内容



事務組織と業務内容

福島大学では、教育研究組織の再編や地域課題などに対応するため、事務機構改革をその都度行っています。令和7年度に事務組織再編を行いました。

業務は、主に総務系、財務系、教務・学生系、研究協力系、学術情報系、施設系に分かれています。行事・イベントなど、全学で連携・協力して行う業務もあります。



課・室等	
事務局	総務課－広報・渉外室
	人事課
	会計課
	施設課
	教務課
	学生支援課－キャリア支援室
	入試課
	研究振興課－事業推進室
	社会共創課
	学術情報課
学長室	
監査室	
人間発達文化学類支援室	
附属学校園支援室	
行政政策学類支援室	
経済経営学類支援室	
共生システム理工学類支援室	
食農学類支援室	
環境放射能研究所	

理念・将来構想、取り組み





福島大学

— 激変の時代に、柔軟に、かつ強靱に
大学づくりをすすめるために —

グランドデザイン

2040

変化の時代に、進化で挑む。

Fukushima Dynamism



福島大学グランドデザイン2040の要点

GRAND DESIGN
2040

VUCA時代に直面する多様な課題の中、福島大学は法人化や震災を経て得た知見を活かしつつ、人口減少への対応などといった新たな課題に挑んでいます。

大学として対応すべき課題

- ◆ 国立大学法人としての機能強化・発展
- ◆ 少子化問題への対応

- ◆ 財政基盤の強化
- ◆ 社会における諸問題を解決・緩和できる人材育成

ミッション（使命）

- 新たな社会のあり方を提案できる大学
- 個人のWell-being、社会のWell-beingの実現を目指す大学
- 激変の時代に「柔軟に、かつ強靱に」取り組む大学

ビジョン（目標）

- 「正解のない問い」にチャレンジできるイノベーション人材の育成
- 地域と世界における現代的で複雑な課題解決のための研究強化

バリュー（行動指針）

教育

- 問題解決型教育の推進
- 異分野融合を促進する教育組織の再編
- 教育の質保証徹底と学修者中心のカリキュラム構築

研究

- 異分野間の共同研究を推進
- 人文社会系との融合を期待した理・工・農学系の研究強化
- 環境放射能研究所、発酵醸造研究所、水素エネルギー総合研究所等の研究を進化・発展

地域社会との連携

- 地方国立大学の社会貢献の在り方を再構築・強化
- 研究者が問題解決に関わる地域貢献の実践研究を設計
- 将来の地域の姿や課題を明確化し、逆算して課題を提起

教員養成・附属学校園改革

- 震災・原発事故復興と少子化に対応した教員養成の福島モデルを構築
- 少子化を考慮した附属学校園の抜本的改革を実施

地域に即したグローバル教育を全学で推進

- Fukushima Ambassadors Programを発展させ、地域に即したグローバル教育を全学で推進
- 留学生増加、語学力向上、海外インターンシップ活性化
- 海外との共同研究数の増加

大学改革

ミッション、ビジョン実現へ向け、 新たな教育研究組織を構築

- 教育と研究を一体的に行う新たな学士・修士・博士課程へ改組
- 学長のリーダーシップで意思決定を効率化するためのガバナンス体制の見直し・整備
- 持続可能な大学を目指す財政改革
- 組織と研究分野の再構築で本学の強みを強化
- 県内外の高等教育機関と連携を強化し、機能の共有を実質化

福島大学グランドデザイン2040の本文はこちら ▶



「福島大学グランドデザイン2040」は、未来の福島大学の設計図です。

福島大学は、一人ひとりのWell-beingと、社会のWell-beingを実現する「新しい社会のあり方」を提案できる大学を目指します。そして、時代の変化に強く、柔軟に対応できる大学に進化します。

「正解のない問い」に挑む力を育てる！

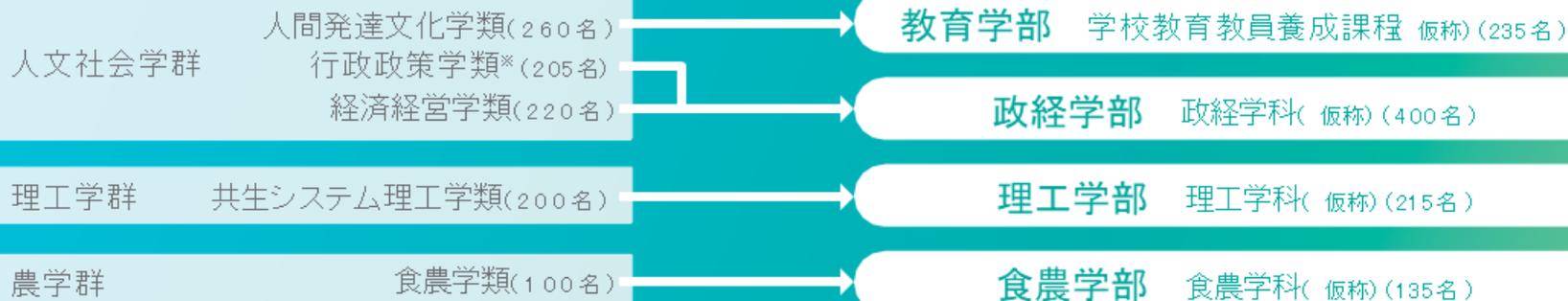
これからの社会は、教科書に載っていない問題ばかり。福島大学では、実際の地域の課題に向き合いながら、自分で考え、仲間と協力して答えを探す力を育てます。

地域と世界をつなぐ研究を強化！

東日本大震災以降、福島大学は多くの研究プロジェクトを生み出してきました。これからは、人文社会科学、環境やエネルギー、食と農など、最先端の分野を横断した研究を通じて、社会を変えていきます。



令和9(2027)年度 3学群5学類から 4学部に変わります。



※夜間主は廃止されます。

学部名や開設時期はいずれも予定であり、変更が生じる可能性があります。



取り組み



- 福島大学では、地域社会の未来に必要な最先端の研究をしています。それらの研究は、教育に還元され、地域社会に実装されることにより、国立大学としての使命を果たすこととなります。最近では、水素エネルギー総合研究所が設置され、地域の資源を生かしたエネルギーシステムの研究が始まっています。
- 福島大学では、学部教育以外にも様々な教育プログラムを全学生に提供しています。被災地へのフィールドワークとデータサイエンスを組み合わせたプログラムや、**Fukushima**の本当の姿を体験しに来る留学生との交流、商品開発や農業の六次産業化をめざすプログラムなど多彩に富んでおり、地域からも高い評価を得ています。



求める職員像



Fukushima University
GRAND DESIGN
2040

求める職員像

1

将来を見通した広い視野と明確な根拠を持って企画立案する職員

2

常に問題意識を持ち、自ら考え、主体的に課題に取り組む職員

3

経営意識(コスト意識)を持ち、効率的かつ効果的に業務を遂行する職員

4

業務に必要な情報の収集、知識の習得を積極的に行う職員

5

組織内のコミュニケーションをとり、良好な関係を構築する職員



《教育重視の人材育成大学》

福島大学職員はこのような
職員を目指しています。

All For Students
～共に成長する職員～

一步先をみよう！

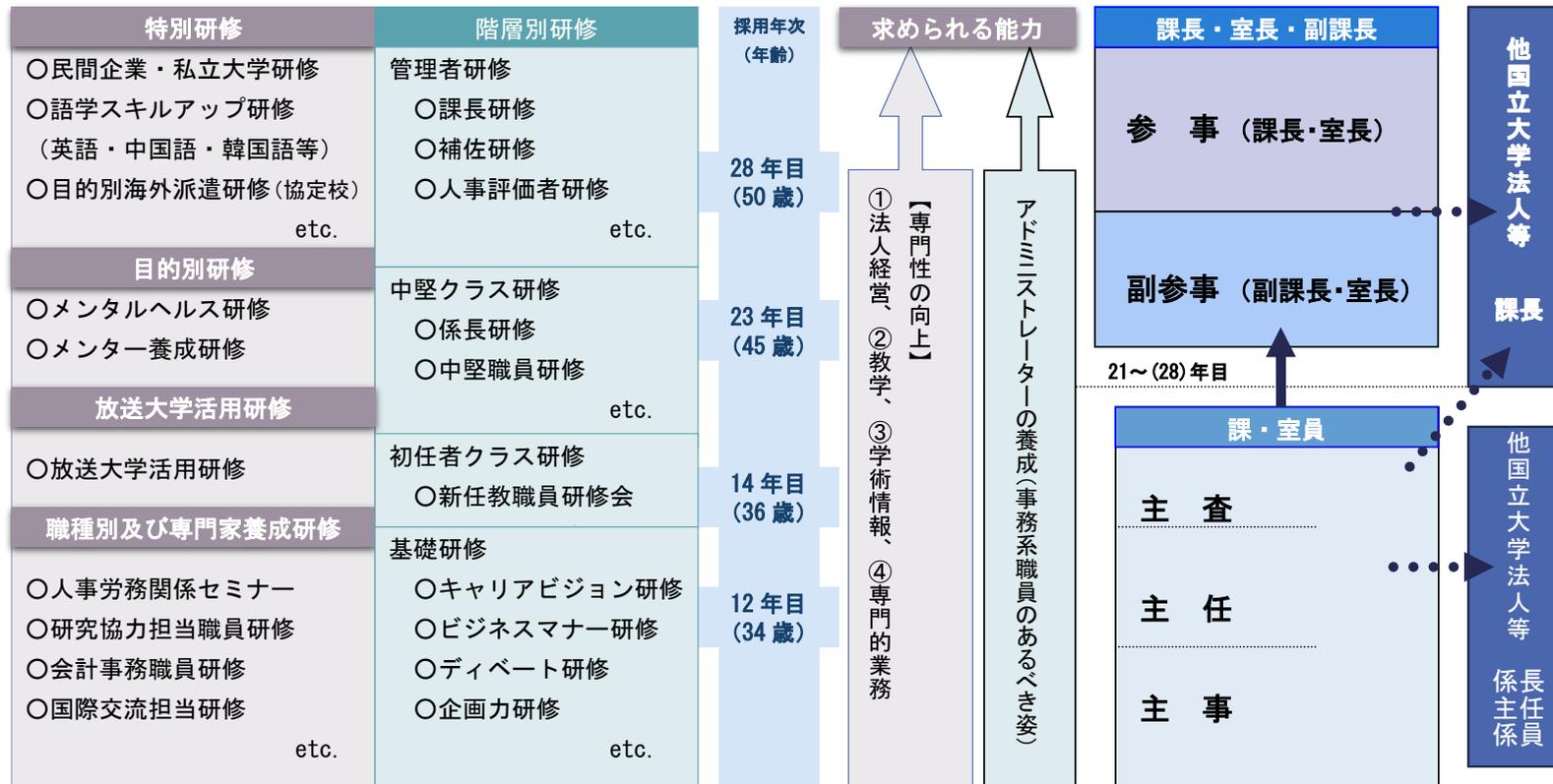
失敗を恐れず何事にも挑戦しよう！

時間の使い方を工夫しよう！

常に学ぶ姿勢を持とう！

ありがとう、感謝の気持ちを伝えよう！

福島大学事務職員のキャリアパス例



※この表は、あくまでも一例であり、本人の勤務成績や希望により変わります。

勤務条件・福利厚生



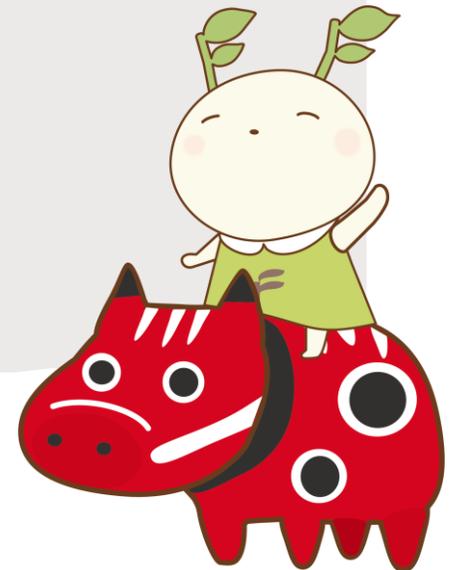
勤務時間等

- 勤務時間：8時30分～17時15分
所定労働時間 7時間45分（休憩60分）
- 休日：土曜日、日曜日、祝日、年末年始
※時間外労働や休日出勤を命ずる場合があります。
- 有給休暇
年次有給休暇、病気休暇、特別休暇（リフレッシュ休暇、結婚休暇、産前・産後休暇、育児休暇、介護休暇、社会貢献休暇等）
- その他
育児休業、育児短時間勤務、育児時間、介護休業、介護時間



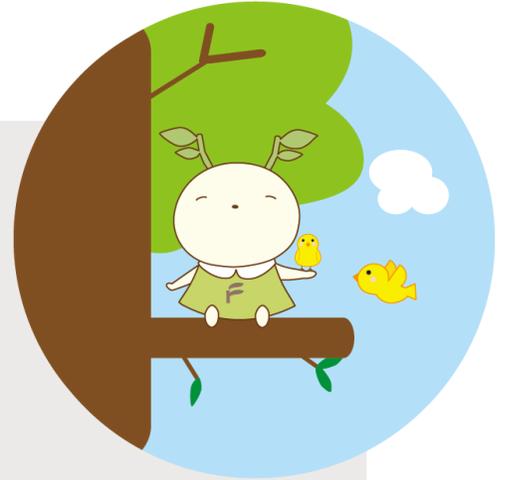
給与・手当等

- 初任給：約22万円～約24万円程度
(学歴、職務経験等に基づき決定)
- 昇給：年1回 (前年の勤務成績に応じて)
- 賞与：期末・勤勉手当 (6月、12月)
- 手当：超過勤務手当、通勤手当、住居手当、扶養手当 等



福利厚生

- 社会保険等
文部科学省共済組合、雇用保険、労災保険に加入
- 宿舎
福島市内 3 カ所
(有料。希望者が多い場合は入居できないことがあります。)



2次試験



Fukushima University
GRAND DESIGN
2040

採用までの流れ



選考

◆第1次選考

WEB集団面接（1グループ3名～5名程度）

8月27日（水）、28日（木）



◆第2次選考

対面での個別面接（第1次選考合格者のみ）

9月4日（木）、5日（金）※予定

福島大学金谷川キャンパスで実施



申し込み方法



ワンキャンパスのコンパクト総合大学

教職員同士の顔が見える
コミュニケーションが取りやすい
職場です。

あなたも
福島大学で輝いてみませんか！

